

開成ファミリー 教室とご家庭を結ぶコミュニティー情報誌

Kaisei Family

Father and Mother, I Love You ♥

2021
冬号
vol.62



特集

だから、少人数ゼミ式指導 入試必勝アドバイス

公開テスト成績アップ者&成績優秀者

読解・作文力検定成績優秀者

夏なび優秀者

That's 雑学

先生からのおすすめ本

開成教育セミナー

IEL 工一 進学教室

教務責任者が語る

「開成の指導が目指すもの」

私が生徒たちの成長を願ううえで強く思うことは「目標達成に向けて継続的に努力することができる」ようになってもらいたいということです。しかし、継続することは人間にとってとても難しく、個人の強い意志と正しい方法が必要です。スポーツでも芸術でも学習でも、成長していく過程において必ず「伸び悩み時期」があり、本当の成長はそれを乗り越えたときにこそ実現されます。

人は伸び悩めば必ず不安になります。不安が募れば「あきらめ」につながってしまいます。しかし、伸び悩んでいるときにこそ、しっかりと伸び悩んでいる原因を考えたり、もう一段伸びるために何が必要を踏まえて計画を立て、行動し、また修正を繰り返すことが重要なのです。

講習でも大切なことは同じだと考えています。努力するきっかけを与え、目標、計画、実行、結果それぞれを見える化し、称賛や承認を行うことで生徒が自ら壁を乗り越えられる、そんな指導を重視しています。

講習では短期間に凝縮してこのプロセスを実行し伝えていく事になるので、手一杯になるのではないかと思われがちですが、逆に短期間

に集中して行うことで間を開けずに繰り返し体感することで、より理解が進むと考えています。理解が進めば次に行動が変容します。そうなれば講習後でも、講習でつかんだ学習プロセスを、実践し続けていけるようになると考えています。

さらに講習は復習だけでなく、新たな単元を身につけるのにも有効であると考えています。新たな内容について導入部分を指導するために、通常授業の期間では週1回で数か月かかるところ、全体の流れをまとめてみることでできればより身につけやすくなるのです。

そういった意味で開成の講習では前半に復習を行い、後半で次の学期に履修する単元の先取りを行います。重視すべきは復習の際に取り組み方を学び、予習の際に活かすというプロセスになります。

開成の指導理念が一回ごとの授業で示されており、それを繰り返すことで集合体が完成し、生徒の成長という大きな目的を達成できるよう指導しています。



【教務課長】
門脇 由治

高校受験

【茨木高校 合格】 乾 晶仁さん

強い意志で
課題解決力を高める

茨木高校に行きたいと強く思っていたのですが、中学2年生のとき苦手科目の成績が伸びず、志望校を変えようと思うことがありました。勉強以外に楽しいこともあったし、自分の心に折り合いをつけようとしていたのでしょう。でも3年生になって、ほんとうに行きたい茨木高校に合格できるよう、何より、なりたい自分になろうと決意しました。

とはいえ、「苦手なことを避けてしまう自分」と向き合い、乗り越えることは容易ではありませんでした。しかし苦手を遠ざけるのではなく、自分の力で「苦手の扉」をこじ開けようと考え、「わからない」には必ず原因があり、その原因を明らかにすれば必ず克服するための手順が見つかる、というシンプルなことにたどり着きました。

苦手の国語の論説文では、文章には構造があることが理解できていなかったことが原因でした。構造理解から内容理解することが求められていることがわかり、対比構造を見抜き、接続詞に着目するなどして勉強を続けていくうちに苦手意識も消えていきました。

こうして身につけた自信と経験を活かし、将来は人を支援する仕事に就きたいと思っています。「できないからあきらめる」と困っている人たちの課題解決をしたい、そのために必ず存在する原因を突きとめ、解決策を明確にし、希望の持てる世の中にしていきたいと思っています。



高校受験

【膳所高校 合格】 中村 悠花さん

「苦手、よくわからない」
の原因は関心がないこと

ずっと憧れてきた膳所高校合格のために意識的に取り組んできたのは、得意科目を伸ばして合格点をクリアすることではなく、自分ができていないことを直視し、苦手なことを克服するということです。膳所高校に合格するだけでなく、入ってから自分を高めていきたいということが目標だったからです。

自分の苦手なことを克服すると言うのは簡単ですが、実際にはなかなか思った通りにならず、結果も出なくて投げ出したくなりました。私は社会が苦手で、いろんな暗記法を試してもうまくいかなかったのです。

しかし、社会が苦手なことについてじっくり考え、開成の先生に相談することで、テストの点数を取るために暗記に走っていたことが原因であることに気づきました。勉強に限らず「なぜか苦手、よくわからない」というのはそのことに関心がないことが原因なのだ。

一問一答式の学習方法をやめて、歴史の漫画本や資料集を毎日見ることし、事象の前後関係や関連性に注目しながら、なぜそうなったのか掘り下げていくことを実践し、開成の先生や友だちとの間でも話題にするようにしました。

昔にあったことも、遠くの出来事であっても、関心をもって深く理解しようと努力をすれば、よくわかり、活きた知識として自分のものになっていきます。また、仲間どうして知っているか知らないかということ競争ではなく、それぞれの理解を深めること、考えたことを話すことで関心の輪が広がっていき、さらに自分を高めていくことにつながるということを経験できたのは大きな財産で、みんなに感謝しています。



入試必勝 アドバイス

合格

受験生のみなさん、入試に向けての準備は順調ですか？入試直前期を迎えるまでにすべきこと、入試当日に心がけることを、入試を知る先生たちから「入試必勝アドバイス」として、みなさんへお届けします。不安な気持ちもアドバイスを読んで解決しよう。がんばるみなさんを全力で応援します！

国私立中学校受験編

国語

中尾圭子先生



本番さながらの
取り組みをする時間をつくること。

国語は取り組み方次第で、まだまだ成績を伸ばせる科目です。そのためは、「本番さながらの取り組みをする時間をつくること」。過去問題に取り組む場合、開始とともに大問の構成と設問を数分で確認し、自分なりの時間配分を考えて解いてみましょう。漢字や語句問題が大問で分かれている場合は先に解いたほうが落ち着くし、全体の時間配分を計算しやすくなります。そして解く際に大切なことは、授業で習ったことを実践することです。問題文を読みながら重要箇所を線を引いていますか？設問を解きながら線引きは増えていきます。問題文の抜き出し部分や記述の解答を作成した根拠となる部分に印をつけることによって、自分の思考を「見える化」することができます。試験という場であるからこそ、制限時間内でいつも通りの解法を実践するのです。

社会

浅田俊朗先生



答え合わせを丁寧にして下さい。

「これはできる。簡単だ。」と思うところに危険がひそんでいます。間違えて語句を覚えていませんか。勘違いして覚えていませんか。自分のミスを見つけていくのも答え合わせの一つです。合格するための一つが丁寧な答え合わせです。それはテストでも役立ちます。社会のテストで見直しをすることは至難の業です。なぜならば、自分の書いた答えは絶対合っていると思うからです。その気持ちも大切ですが、どこかにミスがあるはずだという思いで見直しをしてください。答え合わせを丁寧にする癖をつけていると、必ずテストの見直しにも生きてきます。

「疑問点があれば、一冊のテキストに書き込む」

試験間近になると不安が出てきます。「あれ、なんだったっけ？」とあわてて調べるのは時間の無駄ですよ。その都度テキストに書き込むことで、すぐに確認できるし安心できます。自分なりのパイプルを作りましょう。そうすれば鬼に金棒ですよ。

算数

吉野要先生



実力の差は演習量の差に比例する。

入試までの残り日数も限られてきましたので、今から優先してやるべきことをお伝えします。ライバルよりも1問でも多く問題を解くことが合格の鉄則ですが、演習量を増やすには次のことを今一度意識してください。

- ①基礎基本に立ち返って、計算の正確さとスピードを向上させる。計算が速く正確にできないと、問題を多く正確に解けません。また「単位」ももう一度確認しておきましょう。「毎日1枚、学校に行く前に計算プリントをやっていく習慣をつける」のも効果的です。
- ②大問ごとに時間を決めて解く。大問1題を解くのに5分、10分と必ず時間を設定してください。全部で50分、とやっていると時間通りには解けません。1問が設定時間以内で解ければ、予定していた問題数より多くの問題を解くことができます。また1問ごとに時間を設定することで集中力がアップします。良いことづくめですね。
- ③解答の解法を上手く使う。

わからない問題があったらそのままにしているのは×です。すぐに対応しましょう。その時に教科書を引っ張り出して調べるのがベストですが、時間がなければ解答の解法をしっかりと読んで、真似して書いてみましょう。ただしこれで満足してはいけません。(これで満足する受験生、割と多いです)今度は自分の力でもう一度解いてみましょう。もし解法がよくわからないときは、先生に質問してください。

「自信を持てればおそれるものは何もない。」

自信をもつには、①～③を信じて実践すること。やることやったら自信はいつのまにかついています。ただし過信は禁物。いつでもチャレンジャーの気持ちで取り組もう。

理科

沖口太郎先生



弱点を残さないで。

入試前の冬、この時期だとさすがにほぼ仕上がっていますよね。暗記事項はこの時期には仕上がっているのは受験生として当然で、できていて当たり前ぐらいに思っておきましょう。各分野に弱点は残っていませんか。残した状態で入試日を迎えることのないようにしてください。弱点分野をできるかぎり克服して入試に臨みたいものです。そして、入試問題にどんどんあたり傾向をつかんでいってください。出題者の意図を読み取った上での的確な解答ができるよう心がけましょう。また、計算に時間がかかりすぎるようではいけません。速くそして正確にできるようにしていきます。最後に、時間配分にも気をつけなさいといけません。考えすぎも考え物です。結果として時間が足りず、できる問題を残すことのないようにしましょう。

公立中高一貫校受験編



咲くやこの花中学・水都国際中学

適性I 国語

岸本啓吾先生



戦略をもって挑むこと。

入試がせまってきましたが、体調はどうでしょうか。まず入試において重要なことは、「いかに当たり前のことを当たり前にできるか」ということです。過去問演習も進んでいるでしょうから、過去問を実施しての解き直しができているか、通常授業や以前の講習テキストの解き直しができているかなど様々なことが言えるでしょう。適性検査Iの国語においても作文が出題されます。10分を目安に仕上げましょう。また段落構成のイメージ、具体例の明確化、未来を見すえた結論の作成、落ち着いて最高の答案を作ってください。時間配分に気をつけることも大切です。当日は腕時計持っていってくださいね。45分の時間内で国語・算数を解き切らなければならないので、過去問演習時にどちらの教科から解くのかなどの戦略をもって挑んでください！皆さんの健闘を祈っています！

咲くやこの花中学・水都国際中学

適性II 国語

岸田幸夫先生



自分なりの考えをあたためておくこと。

どちらの中学もこれまでの過去問題では、いろんな分野から出題されています。すぐには思いつくことができないような設定が出題されることも予想されますので、世の中の出来事や話題になっていることなど、なるべく興味を持って自分なりの考えをあたためておくことが必要です。また、日ごろから、自ら課題を発見し解決する姿勢や、固定観念にとらわれない自由な発想を心がけてください。これからの作文の練習方法として、これまで書いてきた作文を見直し、同じ題でもう一度書いてみるというのもいい練習方法です。また、たとえば、新聞の一面に載っているような出来事、ネットのニュースになっているような出来事に対しての考えや思ったことを100～150字程度でノートにまとめてみるのもよい練習方法なので試してみましょう。

富田林中学

船曳久義先生



解答する問題の優先順位をつける。

入試まであと数ヶ月となりました。みなさん、日々の勉強は順調にすすんでいますか？競争倍率3倍以上の狭き門をくぐるための鍵になる適性検査III(算数)。算数の問題は見た瞬間に解き方がわかるような問題が出題されることは期待できません。計算問題1つとっても、何らかの工夫を思いつかないと、ともに計算すると大きく時間をロスすることになります。まず全体の出題内容に目を通し、解答する問題の優先順位をつける。大問Iから順に解かず、前半で正解できる問題がないかを見破れることがポイントになります。とるべきところで確実に点数をとりきる。入試当日で慌てないように、全国の適性検査型の入試の過去問に多く触れて慣れておきましょう。

咲くやこの花中学・水都国際中学

適性I 算数

石川淳也先生



必要な情報をまとめて、
すぐに確認できるように。

適性検査Iの算数では、問題文の文字数がとても多いです。そのため、必要な情報をまとめて、すぐに確認できるようにし、その情報をもとに式を組み立てなければいけません。これを本番でできるようにするには、普段から過去問演習などを行う際に、必要な情報に線を引くことです。その部分が強調されて、確認がしやすくなります。計算については、日々の反復練習が必要です。毎日10分ずつでも、計算練習の習慣を身につけましょう。また、小5の単元は割合や速さの問題を中心に、よく出題される単元です。まずはそこから復習を始めましょう。わからないところは1人で考えず、先生に質問してください。自分1人で解けるようになるまで、繰り返し練習をしていきましょう！受験までもうあと少しです。後悔しないように、最後まで頑張りましょう！

咲くやこの花中学・水都国際中学

適性II 算数

川崎永先生



問題文を一つひとつ
納得しながら読み進めて。

算数が大好きな君たちは、試験日が近づくにつれてどんな問題と出会うのかワクワクしながらもソワソワもしていることでしょう。初めて見る問題形式であっても、問題文を一つひとつ納得しながら読み進めていきます。知っているタイプの問題が出てても、今まで解いた問題と違っているところがあるかもしれません。計算もいつもよりいねいにやりましょう。時間配分も大切です。過去問を解いたときと同じペースで取り組めるようにしましょう。入試本番までの残された時間は、通常授業のテキスト・講習のテキスト・開成公開テスト・模試の復習をすることをおすすめします。一度解いた問題を解きなおすことによって、「あのときはできなかったけど今はできる！」という気持ちが、自信につながるのです。ラストスパート。走り切って！

滋賀県立中学

山野一博先生



自分の考えや気持ちを
相手(採点者、面接官)に
わかるように答えよう。

適性検査では苦手な単元の復習はしっかりと時間を使い、基本的な問題はできるようにしておきましょう。算数に関連する内容が出題される場合は、式と説明が求められますので、ことばによる説明が式と合っているか、先生に添削してもらいましょう。作文では与えられた文章の内容と問題文を正しく理解することが重要です。書いた作文は問題文とともに先生に見せて添削してもらいましょう。問題で求められている内容で書けているか、自分でも読み返してください。面接は準備をしておけば、答えに困るような質問はありません。小学校でのこと、入学してからやりたいことは語れるようにしましょう。面接官の質問に対して、自分の考えや気持ちを自分のことばで答えられているかどうか、意識して練習してください。試験当日をどこまでイメージして行動し、一日一日を過ごせるかで、本番で自分の力を発揮できるかどうかが決まります。しっかりやり切れるようがんばってください。



That's雑学

光と色の 雑学編
Lumière et couleur
WINTER

冬は空気が澄んで満天の星が期待できます。
今号では自然に思いをはせて、光と光が生み出す色の雑学をご用意いたしました。

雑学① かいそう 海藻の色

植物の色は何色ですか?と聞かれたら、ふつうは「緑色」と答えますよね。でも海の中の植物である海藻の色は、赤かったりオレンジ色だったり茶色かったりと、緑色だけでは限りません。中学生以上の方は分かると思いますが、植物は光合成をおこなうために、葉緑素という緑色の色素を葉の細胞の中に持っています。太陽の光は実は透明ではなく、様々な色の光が混ざり合っています。そして物質の色というのは、その物質が吸収せずに反射した光の色なのです。

葉緑素は赤色と青色の光を吸収し緑色の光を反射するので、植物の葉は緑色に見えます。海藻も葉緑素で光合成をおこなっていますが、葉緑素以外の色素も持っていて、海面に近いところで生息している海藻は、光のほぼ全部の色を吸収するため黒っぽく見えます。水深が浅いところでは陸上の植物と同じように緑色のものが中心です。水深が深くなると、深くまで届く青緑色や緑色の光を吸収するために、赤色や茶色になることが多いのです。つまり海藻の色の違いは、生息する水深に届く光をもっとも効率よく吸収できる色に進化した結果なのです。

雑学② ブラックホール

ブラックホールは「なんでも吸い込む恐ろしい空間」として知られています。『黒い穴』と呼ばれるのは光さえもそこから脱出することができないため、内部がどうなっているのかを観察することすらできません。

そんなブラックホールの中でも特に巨大なブラックホールが、なんと時速480万キロでさまよっている場所があります。『B31715+425』というブラックホールは、地球から20億光年のかたにありますが、専門家によればこのブラックホールは、止まることなく動き続けているそうです。もし私たちが住む銀河に接近したら、これを引き裂いてしまうかもしれません。このようなブラックホールは、「ならず者ブラックホール」などと言われ、何とこの宇宙にくつも存在する可能性があるとのこと。もしもっと近くにあったらと考えると恐ろしいですね。

雑学③ 夜の空

冬に星空を見上げた時、他の季節より綺麗だと思ったことはありませんか?ふだん見ている星空よりも星の一つひとつが輝いて見える気がします。どうしてなのでしょう?

まず、冬は暗くなるのが早いので真夜中の空は太陽の光の影響をほとんど受けません。その結果、星の一つひとつがはっきり見えやすくなるのです。逆に夏は暗くなるのが遅いので、太陽の光の影響が残って青みがかった黒になります。これを『残照』といいます。これによって星が見えにくくなるのです。

また冬になると空気が乾燥するので、空気中に存在する細かい水分が視界を邪魔しません。そのため、空がはつきり綺麗に見えるのです。

雑学④ 青空

空が青いのは太陽の光に関係があります。太陽の光の色は雑学①でも説明したように、虹の七色、赤・橙・黄・緑・青・藍・紫が混ざりあってできています。透明のように思えますが実際は白に近いような色をしていて、白色光とも呼ばれます。太陽の光が地球に届いて空気分子にあたると、そこで散乱して一面に広がります。赤色よりも紫色に近い方がよりたくさん散らばります。このことをレイリー散乱といいます。紫色の光は地上に届く前に散らばりすぎて弱まってしまうのと、人の目が青色の方をずっとよく捉えるので空が青く見えます。ちなみに飛行機に乗って空を見ると紫色っぽく見えるのは、弱まる前の紫色の光を見ることができているからです。

先生からのおすすめ本

We want you to read these books.

小…小学生におすすめ 中…中学生におすすめ 高…高校生におすすめ 保…保護者におすすめ

その他おすすめ本

- ①君の臍臓をたべたい 住野よる 著/双葉文庫
- ②明日の記憶 萩原浩 著/光文社文庫
- ③十二番目の天使 オグマンディーノ 著/求龍堂



主人公のヤスさんに息子アキラが誕生します。愛妻の美佐子さんと3人で幸せの絶頂に暮らしますが、長くは続きません。不慮の事故で美佐子さんが亡くなります。男手1つで、周りの人に支えられ、不器用ながら精一杯の愛でアキラを育てる中に、たくさんのドラマが温かく描かれます。私がこの本に出会ったのは、大学入学直前の春の日でした。九州出身の私は、入学前の京都の大学の食堂でこの本を読んだのを覚えています。人生で初めて両親の元を離れ、京都で暮らすことになった私は、そのとき重松清氏の描く親の愛、人間の温もりに感動し、1人涙しました。家族愛を題材にした小説はたくさんありますが、中でもこの本には重松清氏特有の人間の細かい描写、温かい表現がたくさん詰まっています。私たちは1人で生まれて1人で育つことはできません。親の愛に包まれて、もちろん親もいろいろ悩んでいる。親が私を育て、そして今の私たちがいるのです。「自分なんかだめだ」「どうせ私なんか。」と思ったときは、このことを思い出します。そうすると「もうちょっとがんばってみるか。」と前向きに考えられるようになります。親への感謝、そして当たり前を感じる幸せの尊さを考えさせられる作品です。ぜひ読んでみてください。

岩本健太郎 先生おすすめの本 小中高

とんび 重松清 著 KADOKAWA/角川文庫

その他おすすめ本

- ①ボクはイエローでホワイトで、ちょっとブルー フレイディみかこ 著/新潮社
- ②ミッドナイトスワン 内田英治 著/文春文庫
- ③友情 平尾誠二と山中伸弥「最後の約束」 山中伸弥、平尾誠二・恵子 著/講談社文庫



知っている人なら名将、策士という良いイメージがバツと出ますが、どちらかというと、いつもぶつぶつボヤいている人、どこか辛気臭い人、など悪いイメージが先行してしまう野村克也元監督。その方が指揮されていたチームが僕は大好きでした。今でこそ普通となっていますが、当時の野球としてはかなり珍しく、大量のデータをもとにチームを勝利に導いた「1D野球」なるものを確立されました。投手の配球や打者の癖、相手の弱点を突いたり、味方の長所を生かしたりと、「勝つ」ためにいろいろと工夫をされました。ただ、画期的とも言えるこの1D野球、当時としては受け入れがたい作戦だったみたいです。ではそんな作戦を、弱小と呼ばれていたチームがどうして受け入れたのか。そこには「勝利」という結果もさることながら、野村監督の人間性が一番影響していたのではないのでしょうか。実はすごく人情家で、勝負に徹するべきどころでも人の気持ちを優先する方だったようで、それが周りには伝わっていたから、この人の言うことなら…という思いが選手にあったのだと思います。内容は野球のことが中心になるので、興味のない人には分らないことも多いです。けど、実は勉強や仕事の取り組み方などにも通じており、置き換えて読めるので、是非とも読んでみたいと思います。

川副聖雄 先生おすすめの本 中高

野村ノート 野村克也 著 小学館

その他おすすめ本

- ①深夜特急2 -マレー半島・シンガポール- 沢木耕太郎 著/新潮文庫
- ②深夜特急3 -インド・ネパール- 沢木耕太郎 著/新潮文庫
- ③深夜特急4 -シルクロード- 沢木耕太郎 著/新潮文庫



この「深夜特急」は、ノンフィクション作家の沢木耕太郎が、インドのデリーからロンドンまで乗り合いバスで旅をした実体験をもとにした作品です。初版が発行されたのは今から30年以上も前ですので、現在とはいささか状況は異なります。私がこの本と出会ったのは高校生の時で、ふと立ち寄った本屋の平積みで目に留まり買って読んでみて夢中になりました。作者はいい加減な計画と、いい加減な持ち物だけで出発した26歳の若者で、この1作目はタイトルどおり香港とマカオの様子を、作者独特の乾いた文章で綴っています。余計な感情の記述がなく、淡々と語られているにもかかわらずその土地の空気、湿気や臭いというものを見事に感じさせてくれます。当時香港はまだイギリスの統治下でした。私が大学生のときこの本の影響で、香港・マカオ・タイ・マレーシア・シンガポールなど東南アジア諸国を、できる限りお金をかけずに回り、各国それぞれ独特の生活様式・文化に触れ、作者が表現した情景とほぼ一緒であったことに感動しました。深夜特急は6部構成になっています。アジアの好きな方、このご時世で海外へは気軽には行けないため雰囲気味わいたい方は是非とも読んでみてください。

鈴木禾乃見 先生おすすめの本 高保

深夜特急1「香港・マカオ」 沢木耕太郎 著 新潮文庫